

平成29年度 チャレンジ!! オープンガバナンス (COG) 2017
地域課題検討ワークショップ実績報告

平成29年7月14日
草津市総合政策部草津未来研究所
アーバンデザインセンターびわこ・くさつ

1. COG2017 地域課題検討ワークショップの目的

草津市では、昨年度の「チャレンジ!! オープンガバナンス 2016 (COG2016)」に引き続き、「チャレンジ!! オープンガバナンス 2017 (COG2017)」に参加します。

このコンテストは、自治体がエントリーした地域課題についての解決策を広く学生や市民から募るものです。エントリーした自治体は、市民や学生が解決策を考える上で必要となるデータを提供し、市民や学生と一緒に解決策を検討します。

地域課題には自治体の担当課からのものと地域住民の希望を契機としたものがあります。今回のワークショップは「まちの健幸づくり」をテーマに克服すべき課題について、市民や学生のみなさんとともに考えます。

2. COG2017 地域課題検討ワークショップ概要

(1) テーマ・目的等

① テーマ:

チャレンジ!! オープンガバナンス (COG) 2017 地域課題検討ワークショップ!
～まちの健幸づくりのために、克服すべき課題とは?～

② 内容:

草津市は昨年度「健幸都市宣言」を行い、「草津市健幸基本計画」を策定しました。その中のひとつに「まちの健幸づくり」があります。この「まちの健幸づくり」を実現するために、克服すべき課題について話し合います。

③ 開催日:平成29年7月1日(土曜日)午前10時から正午まで

④ 開催場所:市民交流プラザ 中会議室(フェリエ南草津5階)

⑤ 参加者:11名

⑥ ファシリテーター:溝内 辰夫(UDCBK)

(2) 当日のスケジュール

10:00 COG2017について

10:15 地域課題について

10:30 ワークショップ

11:45 まとめ

3. ワークショップの内容について

(1) 事務局による説明

別紙資料に基づき、事務局より、次の説明を行いました。

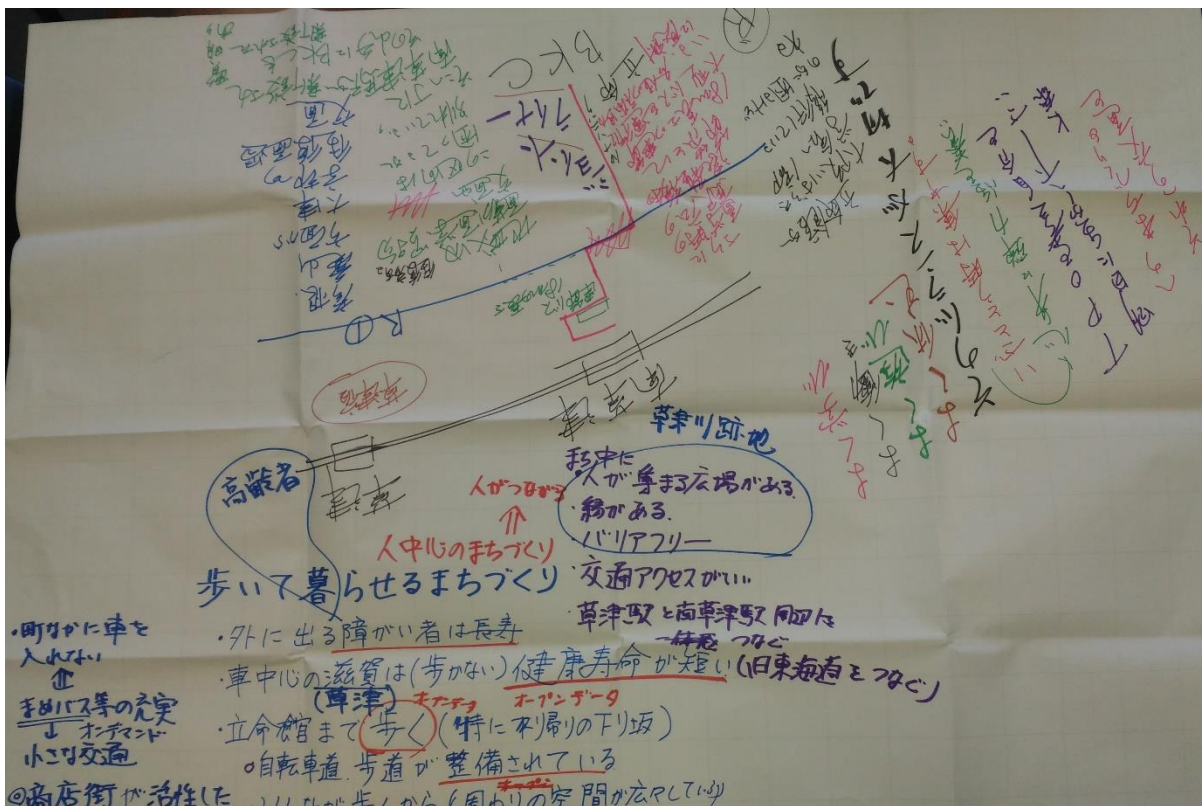
- COG2017 について
- 地域課題について

(2) ワークショップの結果

2グループに分かれ、ワークショップを行いました。

① 歩いて暮らせるまちづくり

ひとつめのグループでは、「まちの健幸づくり」の中の「歩いて暮らせるまちづくり」を実現するための課題を話し合いました。草津市健幸都市基本計画に「歩いて暮らせるまちづくり」とあるが、具体的なイメージが湧かないことが指摘されました。そこで、“歩いて暮らせるまち”とはどんな街なのか、“歩いて暮らせるまち”の条件や“歩いて暮らせるまち”であれば、交通に限らず、どんな街なのかをみんなで話し合いました。



②14 学区のデータ比較による地域の課題発見アプリの開発

市が持っているデータを学区ごとに展開し、利用者は任意にデータを選択したり、また市以外が持つデータとの相関関係をみたりできるよう、学区の状況をGIS上に展開したり、グラフ等でビジュアル化するアプリを開発する。

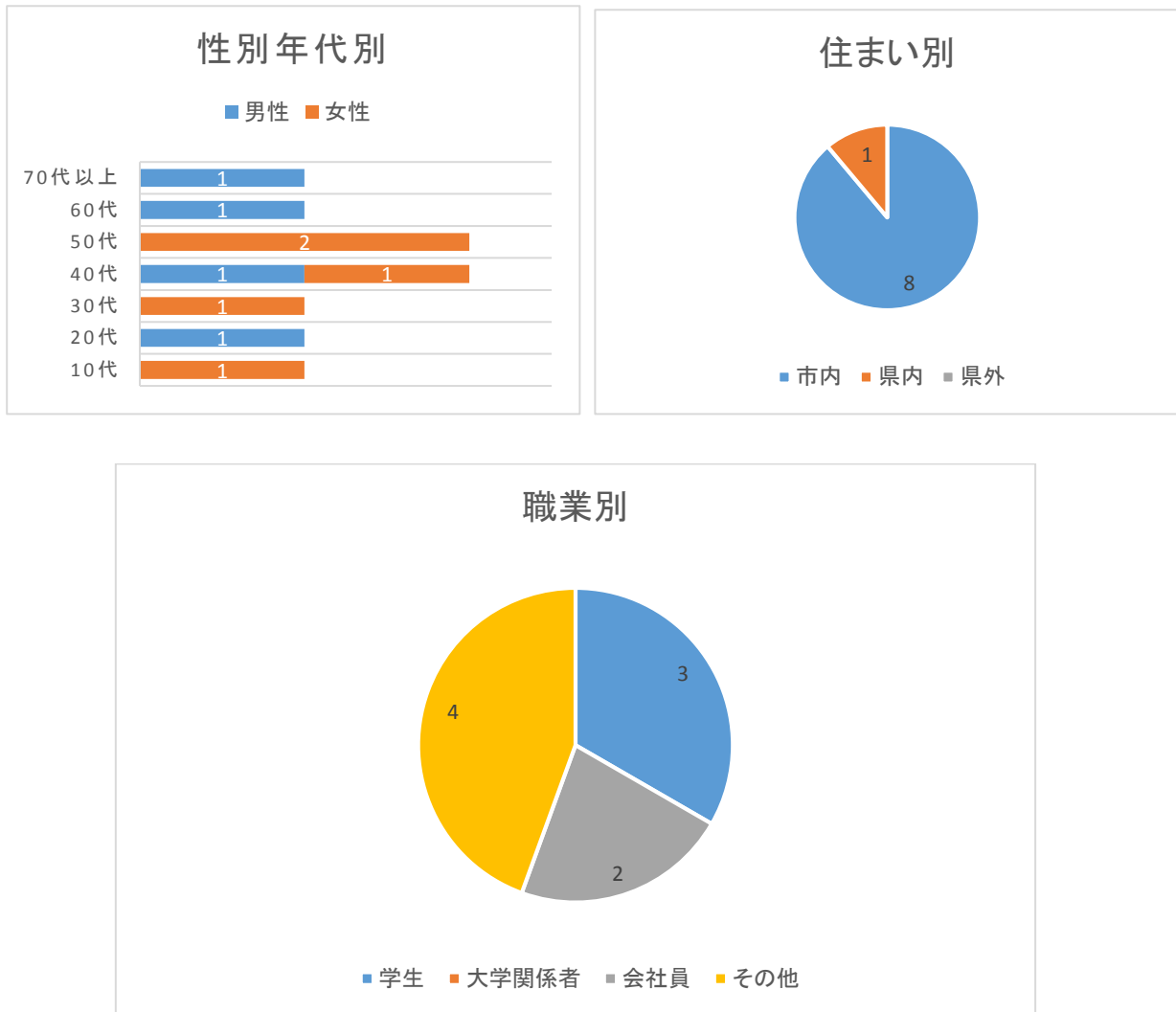
学区ごとの健康状況の違いが、どのような条件の違いで発生しているのかを地域のあらゆるデータを集め、相関関係のあるデータを抽出し、健康状況に与える影響（因果関係）を調査する。



4. アンケート調査結果

アンケート回答者は参加者数11名に対して、アンケート回収数は9件でした。回答率は82%でした。

(1) 参加者属性

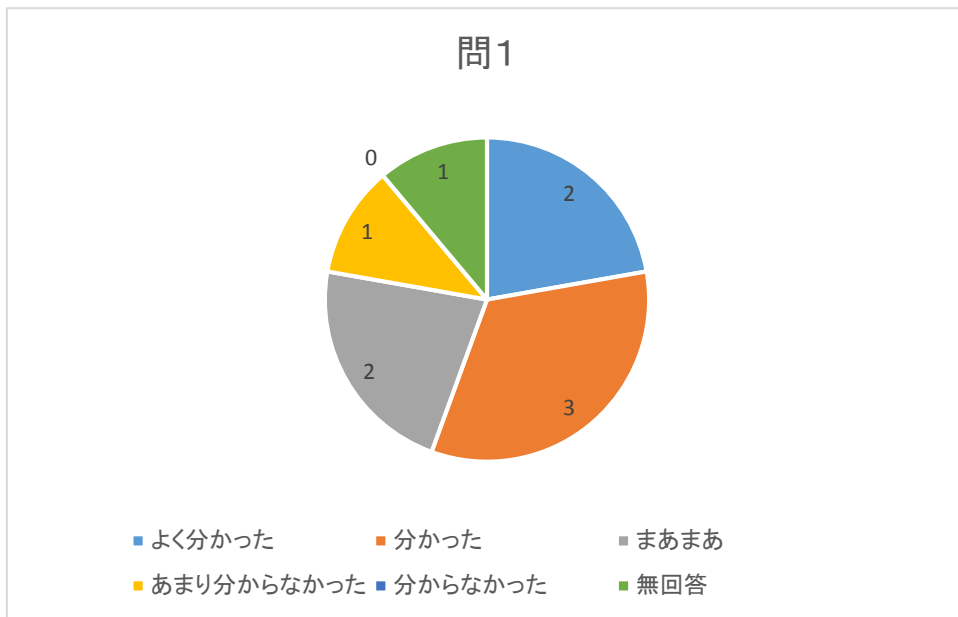


(まとめ)

参加人数は11名と少数でしたが、10代から70代以上まで、職業も多岐にわたっており、多様な人々が自由に気軽に対話する場を目指すUDCBKらしい参加者属性と言えます。

(2) ワークショップについて

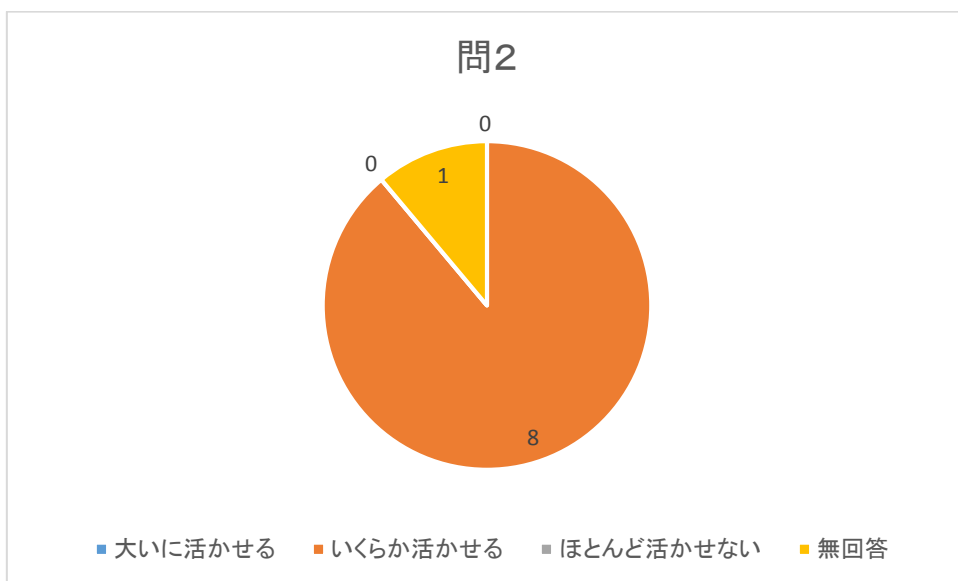
問1 今回のワークショップの内容について



(まとめ)

今までのセミナーと比較すると、今回は「まあまあ」「あまりわからなかった」が多くなっています。テーマが「オープンガバナンス」とカタカナであり、新しい概念でもあったこと、ワークショップ中心のため、相対的に説明時間が短ったことが原因と考えられます。

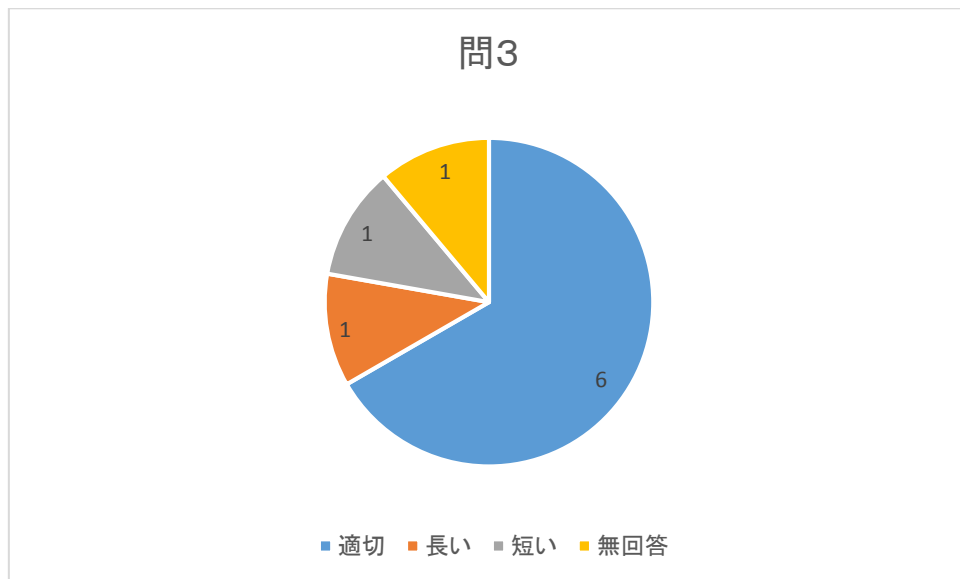
問2 今後に活かせるか？



(まとめ)

抽象的な説明であり、具体的な事例紹介がなかったため、具体的な活用イメージが想起できなかったと考えられます。しかしながら、ワークショップでの対話を通じ、地域課題を解決する方法としてのオープンガバナンスの可能性については感じていただいたようです。

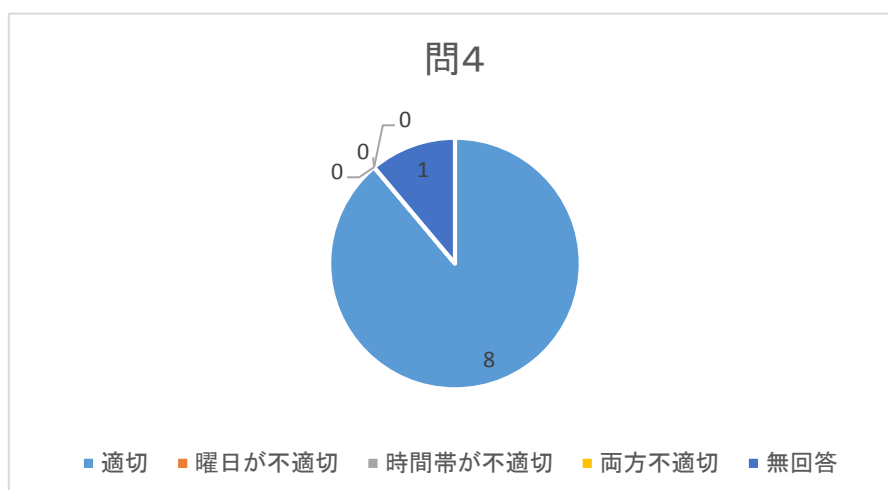
問3 時間



(まとめ)

2時間のうち、1時間半をワークショップに充てたことが適切という評価に繋がったと考えられます。

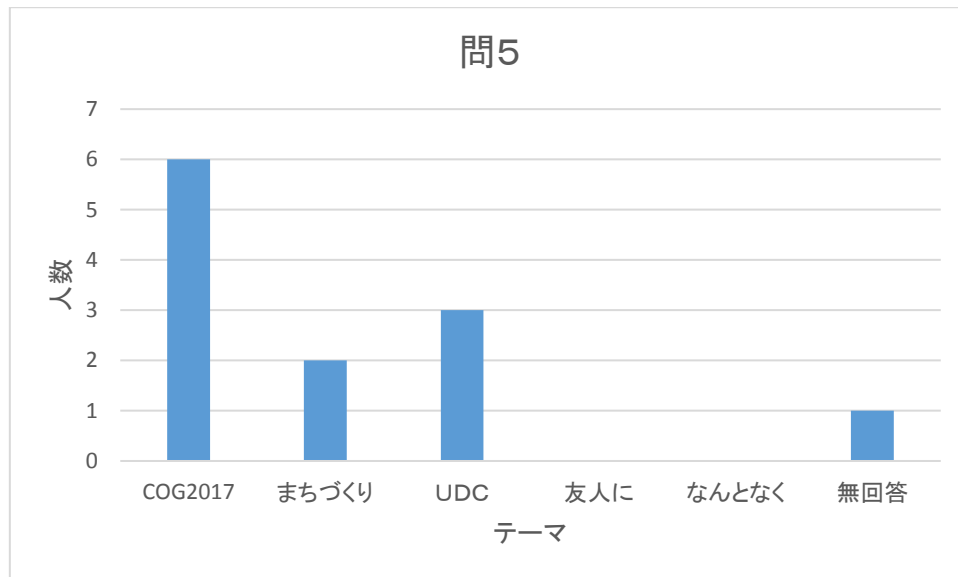
問4 開催曜日、開催時間



(まとめ)

今回は土曜日の午前 10 時から正午に開催しました。

問5 今回のワークショップへの参加動機

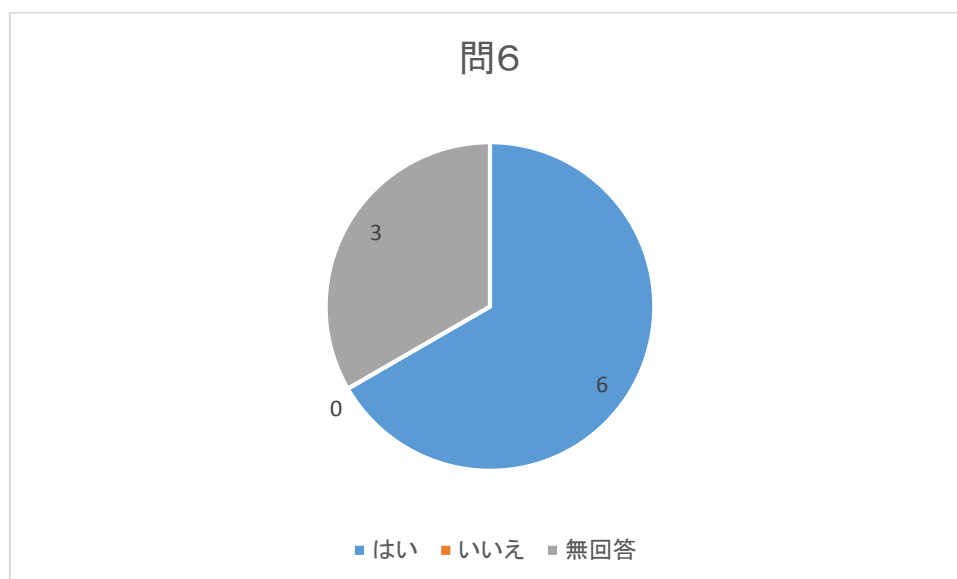


(まとめ)

複数回答ありのため、回答者9名に対し、延べ人数は12名になっています。

COGがテーマであるため、COGに関心のある方が一番多くなっています。「アーバンデザインセンター」回答者3名のうち、2名が「アーバンデザインセンター」に関心があると回答していました。

問6 今後の意見聴取等について



(まとめ)

今回のワークショップの結果を踏まえ、地域課題として纏める際に意見をきいていか
伺ったところ、回答者 9 名中 6 名の方から了解をいただきました。

問7 ワークショップで取り上げたテーマ以外で取り上げてほしいテーマ

(30代女性 市内在住)

市民協働

お金(税金)の使い方

(まとめ)

オープンデータ、あるいはオープンガバナンスの先進事例では、税金の用途をビジュア
ル化して見せている自治体があることからの提案と思われます。

問8 COG2017を進める上での要望

(30代女性 市内在住)

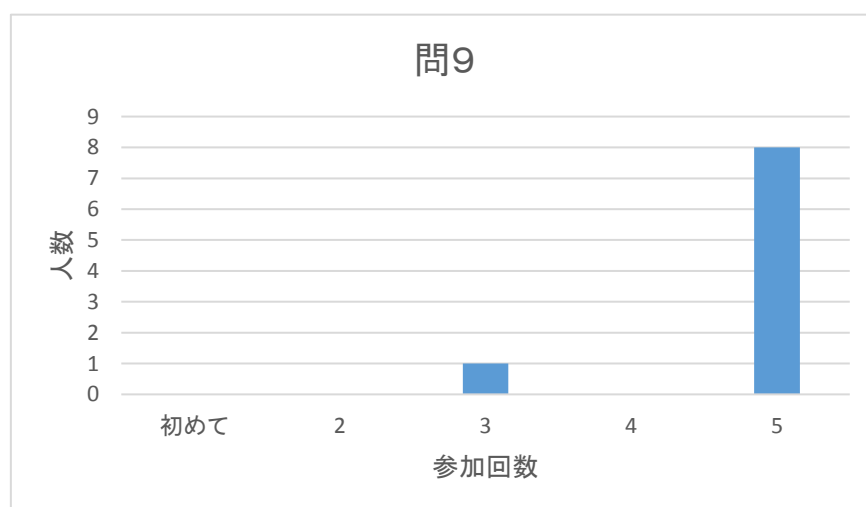
課題が提出された後の説明&WS(ワークショップ)開催

(まとめ)

COG2017にエントリーする地域課題については8月5日(土)にCOG2017の運
営コーディネーターである奥村裕一先生(東京大学公共政策大学院客員教授)をお招き
して開催するセミナーにて報告します。

UDCBKでは、9月より12月までUDCBKを拠点に混成チームで解決策を検討する
ほか、独自で解決策を検討する市民団体や学生団体を支援します。

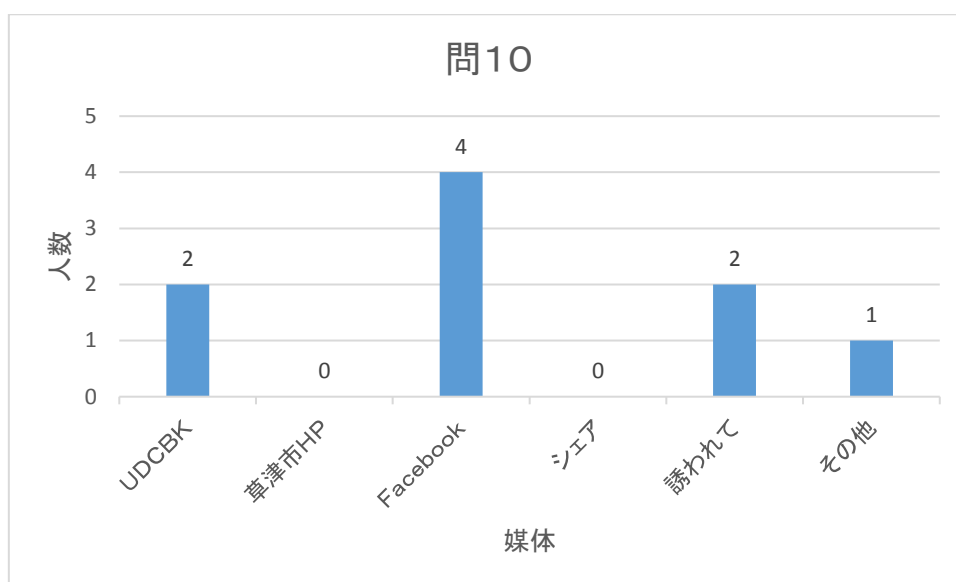
問9 UDCBKのセミナーの参加回数



(まとめ)

今回は回答者9名のうち、8名が5回以上の参加でした。テーマが難しかったにもかかわらず、参加いただいたことから、対話の場としてのUDCBKが評価されたと考えられます。

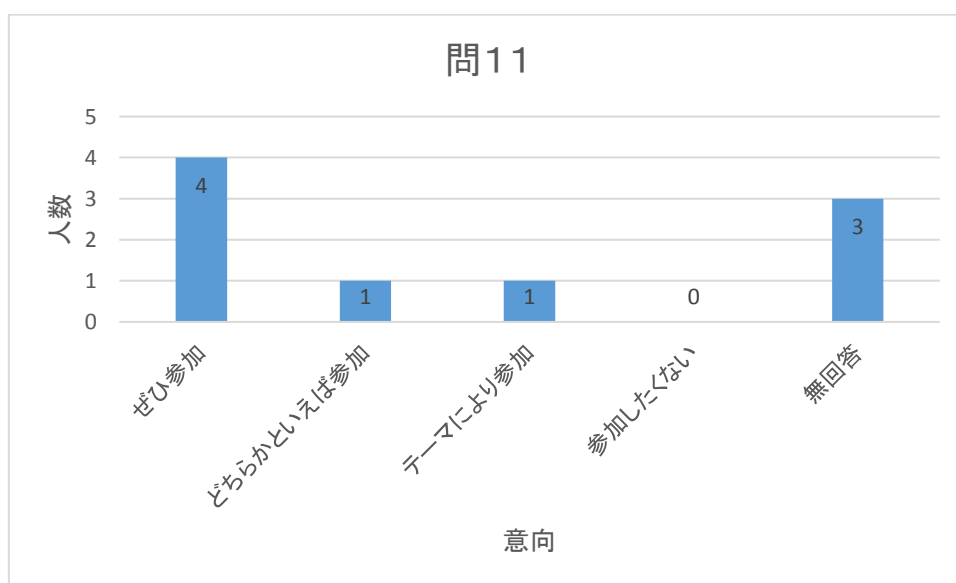
問10 UDCBKのセミナーをどこで知ったか



(まとめ)

回答者9名全員が3回以上の参加であることから、日常的にUDCBKを訪れていたたり、Facebookを登録いただいたり、されているようです。

問11 今後のUDCBK主催セミナーへの参加



(10代女性 市内 学生市内通学)
楽しいから

(まとめ)
今回はテーマが難しかったにも関わらず、次回以降「参加したくない」は皆無でした。
回答者全員が3回以上参加いただいております、テーマに限らず、UDCBKイベントに魅力を感じていただいていると思われまます。

問12 今後UDCBKで取り上げてほしいテーマ(自由回答)

(70代男性 市内在住)
公共交通 ジョイントライナーを活かして
まちづくりと交通との持続可能な社会を

問12 自由意見

(70代男性 市内在住)
今日は良かった。又、開いて下さい

(5) まとめ

今回のワークショップのテーマは抽象的でしたが、参加者のみなさんはUDCBKのワークショップを多く経験されているため、ファシリテーターの力量不足にも関わらず、活発に議論いただきました。

事務局としては、具体例を示すことができなかつたこと、検討する上での参考資料の提供が十分でなかつたことが反省材料としてありました。

また告知から開催まで1週間と短かつたこともあり、11名の参加に留まりました。結果的には1グループの人数が5、または6名の少人数のグループとなり、グループ数も2つのみであったため、いつもよりもまして対話の時間が確保できたメリットもあつたと考えていますが、多様性から考えると4グループが編成できる16~20名は確保したいと考えています。

今後は十分に募集期間をとれるよう余裕をもって告知するよう努めたいと考えています。

以上